

概観

【政治・社会】

- ・ 3日及び4日に英国のキャメロン首相、15日にトルコのダーヴトオール首相がブルガリアを訪問した。
- ・ 9日、イヴァノフ法相が辞任を表明、18日、ザハリエヴァ新法相が就任した。
- ・ 12日、連立与党の改革派ブロックを構成する政党DSBが連立政権からの離脱を発表した。
- ・ 16日、国民議会は、司法制度改革に関する憲法改正法案を最終可決した。
- ・ 24日、第二野党MRFのメスタン党首が解任された。

【経 済】

- ・ 2日、国民議会は2016年度国家予算を可決した。
- ・ 31日から翌月1日にかけて、民間のガス供給会社オーバーガスの顧客への天然ガス供給が停止される恐れがあったが、回避された。

この月報はブルガリア各種メディアの報道等を取りまとめたものであり、在ブルガリア日本大使館の意見や判断を反映するものではありません。

政治・社会

1. 内政

(1) 政府・国民議会の動き

◆司法制度改革に関する憲法改正法案の最終可決

▶9日、国民議会は、高等司法評議会（SJC）の判事部門と検事部門への二分割を中心とする憲法改正法案を第二読会で可決した（注：憲法改正には3回の読会が必要）。賛成は196票（GERB、改革派ブロック、MRF、愛国戦線、ABR、アタック）で、反対票を投じたのはBSPのみだった。SJCの二分割により、各部門がそれぞれ判事、検事及び予審判事の任命、昇進、降格、異動、免職を決定することになる。

▶争点となっていたSJCの二部門における委員の国民議会選出枠と司法選出枠の割当数については、第一読会を通過した当初割当案（改革派ブロックの提案）と異なる割当案（ABRの提案）が、改革派ブロック及び3名の無所属議員を除く全議

会会派の賛成204票により可決された。新割当案によると、検事部門は委員の国民議会選出枠と司法選出枠の各5名に検事総長を加えた合計11名（国民議会割当5名、司法割当6名）、判事部門は委員の国民議会選出枠と司法選出枠の各6名に最高破棄裁判所長官及び最高行政裁判所長官を加えた合計14名（国民議会割当6名、司法割当8名）とされた。イヴァノフ法相は、改革派ブロックの提案する当初割当案が可決されなかったことを受け、辞任を表明した（次項参照）。

▶また、各部門の国民議会選出枠の委員は国民議会の3分の2以上の多数による選出とされた。なお、現在のSJC委員は各自の任期満了まで職務を継続することとされた。

▶国民議会は、SJCは判事、検事、予審判事の任命、昇進、降格、異動、免職に関する決定を秘密投票により行うとの憲法規定を廃止した。本規定の廃止は、賛成190票、反対及び棄権27票により可決された。本規定の廃止により、公開投

票により決定を行う選択肢がSJCに実質的に導入されたことになる。全決定を公開投票とするとの改革派ブロックによる提案は否決された。

▶検事総長に法執行、犯罪対策及び国家刑事政策の遂行に関する検察官の実績報告書の提出を要請する権限の国民議会への付与については否決された。代わりに、国民議会はSJCを通じ検事総長から年次報告書の提出を受けること(現行の規定)に加え、検事総長を「聴聞することができる」こととする改正案(MRFの提案)が可決された。

▶国民議会建物の外では、真正な司法改革を拒否する国民議会の動きに反対する抗議行動が行われた。抗議者はフェイスブックを通じて参集し、ソフィア中心部の一部を一時的に封鎖した。

▶16日、国民議会は司法制度改革に関する憲法改正法案を第三読会で最終可決した。賛成は189票(GERB, MRF, 改革派ブロックの大半の議員、愛国戦線、ブルガリア民主センター, ABR, アタッカ)、反対は39票(BSP左派ブルガリア)、棄権1(改革派ブロックの1議員)だった。改革派ブロックのカネフ議員他5議員は議決を行わなかった。

◆イヴァノフ法相の辞任及びザハリエヴァ新法相の就任

▶9日、イヴァノフ法相は、国民議会で辞任を表明した。同日、国民議会では司法制度改革のための憲法改正法案の審議中(第二読会)であり、イヴァノフ法相は高等司法評議会の判事部門と検事部門の各部門における議会選出枠と司法選出枠の配分に関する自身の提案が賛同を得られなかったことを受け、辞任を表明した。

▶イヴァノフ法相は、採決の結果はブルガリアが検事総長に支配されていることを示したと述べた上で、もはや法相としての権限を行使することはないと表明し、辞任について、自らの決定であると断言した。イヴァノフ法相に続いて3人の法務副大臣が辞表を提出し、ボリスフ首相はヤンクロフ法務副大臣の辞表を除くすべての辞表を受理した。

▶イヴァノフ法相の辞任表明後、RB(同法相を選出)のカネフ共同院内総務(RBを構成する「強いブルガリアのための民主主義者(DSB)」党首)は、もはや自分(カネフ)は野党の一員であると考えており、ボリスフ政権は自分の支持を当てにできないと述べた。DSBのカラジョフ議員はカネフ党首に追随し、野党議員となるため国民議会運輸委員長を辞任すると発表した。

▶18日、国民議会はイヴァノフ法相の辞任表明を受け、エカテリナ・ザハリエヴァ氏を新法相として選出した。ザハリエヴァ新法相は、ライコフ暫定政権(2013年)及びブリズナシュキ暫定政権(2014年)で副首相兼地域開発相を務めた他、第一次ボリスフ政権(2009~2013年)で地域開発副大臣を務めた。また、2012年から2013年の間、プレヴネリエフ大統領の首席補佐官を、2013年以降は大統領府官房長を務めていた。

◆DSBの連立政権離脱

▶12日、連立与党の改革派ブロック(RB)を構成する政党DSBのカネフ党首は、黒海の都市ポモリエで5時間にわたり行われた党会合の後、DSBの連立与党からの離脱を発表した。カネフ党首は、連立離脱の理由は、9日の司法制度改革に関連する憲法改正法案の決議(第二読会)においてGERBがRBの提案内容への同意を撤回し、イヴァノフ法相(当時)を斥けたことである、と述べた。

▶カネフ党首は、DSBはモスコフ保健相の実施する改革政策を支持するとし、同保健相はDSB副党首を辞任するが保健相には留まる、と述べた。また、アタナソフ議員は議会の国内治安・公共秩序委員会の委員長を辞任するが、副党首には留まる。

▶14日、RBを構成する政党「市民のブルガリア」のクネヴァ党首は、ボリスフ政権への支持を表明し、同党は連立政権に留まるとの党幹部評議会の決定を発表した。

▶15日、RBを構成する各政党の党首及びRB

選出の5名の閣僚の出席の下、RB執行評議会が開催され、カネフDSB党首（RB共同院内総務）を除くRB構成政党の党首は、連立政権への残留及びRB選出閣僚への支持を確認した。RBは3時間に及ぶ執行評議会の後に声明を発表し、GERBとの間で、これまでの成果を評価し、連立合意文書及びその実行スケジュールをアップデートするための交渉を同日に開始することとした。

▶DSBは、連立を離脱するとの立場を変更しないと表明した。一方、カネフDSB党首は、来年3月13日に行われるDSB全国大会のみがDSBのRBからの脱退を決定できる、と述べた。

▶RBを構成する「市民のブルガリア」のゼレノゴルスキ副党首（RB共同院内総務）は記者団に対し、RBは改革に向けた保証がある限り連立政権に留まるが、これは今後6か月間の「条件付き」支持であると説明した。また、同副党首は、現時点ではカネフDSB党首はRB共同院内総務に留まると述べるとともに、RBからの離脱を表明した議員はいないと述べた。

（2）政党の動き

◆メスタンMRF党首の解任

▶24日午後、MRFのクラステヴァ報道官は同日行われた党中央評議会の会合後、記者団に対し、同党のメスタン党首が党首を解任され、党からも除名されたと発表した。同報道官によると、ドガン名誉党首（前党首）は同評議会において、党首解任はブルガリアの国益に反した者の運命である、と述べた。ドガン名誉党首は12月中旬に行ったスピーチにおいて、11月のトルコによるロシア戦闘機の撃墜に関してトルコを支持するとのメスタン党首の発言を「大失態」であると述べていた。

▶同評議会はソフィア郊外のボヤナにあるドガン名誉党首の邸宅で行われた。メスタン党首の同評議会への出席は許されなかった。同評議会には評議員の80%以上が出席し、決定は全会一致で可決された。2016年4月に予定されているMRFの全国党大会まで、党及び議会会派はルシェン・リザ議員、ムスタファ・カラダイ議員、チェ

ティン・カザク議員の3名の議員が共同で党首を務める。

▶同評議会の開始前、メスタン党首は南部のカルジャリで特別記者会見を行い、トルコによるロシア戦闘機撃墜に関する宣言に対するドガン名誉党首の厳しい批判について、同声明はMRFの議会会派が共同で作成したものである、と述べた。メスタン党首は、ドガン名誉党首の明確かつ強い批判は党の地方支部や党中央評議会で議論が行われる必要がある、と述べた。

▶メスタン党首は、党首解任の決定後、記者団に対して声明を発表し、長年ブルガリアの国益と結びついてきたのはEU及びNATOであり、ロシアではない、自分は欧州・大西洋主義を擁護したとの理由でブルガリアの国益を損ねたと非難されるべきではない、と述べた。

▶メスタン党首の解任を受け、MRFのシャバナリ・アフマド議員、フセイン・ハファゾフ議員、アイドアン・アリ議員の3名の議員が同党の議会会派を離脱し、無所属となることを発表した。

▶同26日、MRFカルジャリ支部のバフリ・オメル支部長は、現在の党の方針及びメスタン党首の解任に反対し、辞任及び離党を発表した。

▶29日、さらにマリヤナ・ゲオルギエヴァ議員（元青年・スポーツ相）とヴェンティスラフ・カイマカノフ議員（党員ではないがMRFの市民枠で当選）の2名の議員がMRFの議会会派を離脱し、無所属となることを発表した。

（3）その他

◆33名の税関職員が汚職の疑いで逮捕

▶13日、検察当局、国家保安局（SANS）、組織犯罪対策局、ハスコヴォ警察がトルコ国境のカピタン・アンドレエヴォ検問所で捜査を行った結果、33名の税関職員が汚職の疑いで逮捕された。税関職員は車両、トラック、バスの検査を行わない見返りに賄賂を受け取っていたとされる。

◆スヴィレングラッド税関の閉鎖

▶30日、閣僚評議会は南東部のスヴィレングラ

ッド税関を公式に閉鎖するとともに、中央関税局に情報安全部を設立することを決定した。スヴィレングラッド税関の閉鎖の目的は、汚職の防止及び人材・財源の最適化による業務改善・効率化である。１２月中旬にトルコ国境付近のカピタン・アンドレエヴォ検問所で３３名の税関職員が汚職の疑いで逮捕された後、スヴィレングラッド税関の閉鎖について協議が行われていた。

２．外政

◆ミトフ外相：NATO外相会合出席

▶２日、ミトフ外相はブリュッセルで行われたNATO外相会合に出席した。同外相は記者団に対し、２０１６年、ブルガリアはアフガニスタンに１１０名までの規模の部隊を引き続き派遣すると述べた。現在、カブールとカンダハルに計８４名から成るブルガリアの部隊が派遣されているが、ブルガリアは要請があればさらに１０名の軍事顧問を派遣することが可能である。同外相は記者団の質問に対し、アフガン治安部隊に対するブルガリアの年間拠出額は５０万米ドルで変わらないと述べた。

◆キャメロン英首相のブルガリア訪問

▶３日、ボリスフ首相はブルガリアを訪問中の英国のキャメロン首相と会談した。現職の英国首相がブルガリアを訪問するのは１６年振りとなる。ボリスフ首相は会談後、ブルガリアは将来、特に結束政策及びインフラの分野で英国の支援を希望する、と述べた。また、ボリスフ首相は、ブルガリアはシェンゲン国境及び財政赤字について非常にうまく対処しており、欧州が幾分注目する財政規律国となった、と述べた。

▶キャメロン首相は、両国の安全保障と繁栄は二国間関係にとって重要である、と述べた。また、キャメロン首相は、（ブルガリアの）経済改革及び財政規律に関する優れた実績だけではなく、強力なNATO加盟国として国防予算増大のためブルガリアが取ってきた行動、両国間のあらゆる協力、密輸等の問題対処のためブルガリアが取ってきた

行動を理由に挙げつつ、ブルガリア訪問への満足の意を表明した。両首相は、両国が直面する難民及びテロの困難への対処のため、両国がどのように協働できるかについても議論した。

▶同日、プレヴネリエフ大統領はキャメロン首相と会談し、欧州をより強力、効率的、競争的にするための欧州での開かれた対話を求めた。プレヴネリエフ大統領は、英国がEUに留まるのであればEUの誰にとっても最善の利益となるだろう、もし英国が（EUを）去れば誰もが敗北する、と述べた。両者の会談では、国際的なテロとの闘いやEUにおける難民流入圧力への対処のための努力についても焦点が当てられた。

▶４日、キャメロン英首相は、ボリスフ首相とともにヘリコプターでレソヴォの国境検問所を訪れ、ブルガリア・トルコ国境沿いのフェンスを視察した。フェンスは、EU域内への移民の不法侵入を防ぐために設置されたものである。政府報道局によれば、キャメロン首相は視察後、移民の流入増大に直面している欧州諸国は、国境管理の改善方法をブルガリアから学ぶべきであると述べた。

▶キャメロン首相はその後、国境警察エルホヴォ地域事務所を視察し、国境管理、ビデオ監視システム及び移民の審査・登録のためのその他の措置についてグネフ内務副大臣から説明を受けた。

▶内務省によれば、本年、ブルガリアでは、これまでに２９、３０８人の不法移民が拘束され、５、１５０人が難民の地位を与えられた。ブルガリア・トルコ国境沿いの警備は、フロンテックスや特殊パトロールを含む要員の増員によって強化されている。また、国境沿いのフェンスの建設は継続している。キャメロン首相は、警備の効率性に感銘を受けたとし、シェンゲンの基準をいかに満たすかということに関して、ブルガリアは模範となり得ると述べた。

◆レーク・ユニセフ事務局長のブルガリア訪問

▶３日、ユニセフのレーク事務局長がプレヴネリエフ大統領の招待によりブルガリアを訪問した。

プレヴネリエフ大統領は、同事務局長との会談で、ブルガリアの児童政策はバルカン地域全体にとっての手本となる、と述べた。また、同大統領は児童ケアにおけるブルガリアの実績について説明し、ブルガリアは児童の脱施設化を2025年までに完了させ、全ての児童収容施設を各児童のニーズに合ったサービスを提供するネットワークに転換したい、と述べた。レーク事務局長は、ブルガリアにおけるユニセフ・モデルは地域の他の諸国におけるモデルとしても使用できるとの確信を表明した。

▶同事務局長は、ボリスフ首相とも会談を行った。ボリスフ首相は、ブルガリアは児童ケア分野の改革の実施に対するユニセフの貢献を非常に評価している、と述べた。

◆ガリバシヴィリ・ジョージア首相のブルガリア訪問

▶7日、ジョージアのガリバシヴィリ首相はブルガリアを公式訪問し、ボリスフ首相と会談した。両首相は、二国間関係の発展には大きな潜在可能性があると述べ、新シルクロード・イニシアチブへの共同参加の可能性及びジョージアの欧州大西洋への展望に対するブルガリアの支持について強調した。

▶ボリスフ首相は、伝統的に良好な二国間の協力関係を強調し、ジョージアのEU及びNATO加盟に向けた進展への支持を表明した。また、ボリスフ首相は、我々はジョージアとの輸送回廊及びフェリーの接続を非常に重視している、新シルクロード構想は両国の港湾が輸送回廊の一部となる特別な機会を開いた、と述べた。

▶ガリバシヴィリ首相は、ジョージアのEU加盟及び欧州大西洋統合に対するブルガリアの支持に謝意を表明し、輸送全般、特に新シルクロード・イニシアチブにおける協力を強調した。

▶同日、ガリバシヴィリ首相はプレヴネリエフ大統領とも会談した。両者は、両国は黒海地域の連結にとって重要であり、戦略的インフラ及びエネルギープロジェクトにおける協力の潜在可能性は

大きいとの意見で一致した。また、両者は中国の新シルクロード構想への関心についても共有した。

◆キスカ・スロバキア大統領のブルガリア訪問

▶10日、プレヴネリエフ大統領とブルガリア訪問中のキスカ・スロバキア大統領は会談後の記者会見で、EUの団結は困難の克服のために重要であるとの考えで一致した。

▶プレヴネリエフ大統領は質問に答え、国際的テロはEU及びその団結にとっての脅威にとどまるものではない、過激主義や過激化した若者の存在を伴う問題は一日では解決できない、と述べた。キスカ大統領は、EUは加盟国が団結し共に解決策を模索する限り、難民流入圧力に対処することができる、と述べ、EUがその権限を通じ、EUの国民と共に努力することで危機に対処することができるとの確信を表明した。

▶プレヴネリエフ大統領は、スロバキアとの貿易高は5億ユーロ近くとなっており、ブルガリアを訪れるスロバキア人観光客は7万人を超える、と述べた。また、プレヴネリエフ大統領は、両国はIT、自動車産業、機械建設、農業及び食品加工の分野で良好な伝統と大きな成果を有している、両国はこれらの分野における相互投資を促進したいとの希望を共有している、と述べた。

▶同日、キスカ大統領はボリスフ首相とも会談を行った。両者は、両国は歴史的近接性に基づく友好的で緊密な関係によって結びついており、EU、NATO加盟国であることにより関係が強化されている、経済協力の深化には大きな潜在可能性があるとの意見で一致した。

◆アンドリュウカイティス欧州委員のブルガリア訪問

▶10日、アンドリュウカイティス保健・食品安全担当欧州委員がブルガリアを訪問した。同欧州委員はモスコフ保健相と会談し、欧州委員会のブルガリアへの勧告、保健分野における国境を越えた協力等について議論した。また、同欧州委員は

タネヴァ農業・食糧相とも会談し、バルカン諸国における動物間流行症の状況や食品安全の優先事項について議論した。

◆ゼーホーファー・バイエルン州首相のブルガリア訪問

▶ 11日、ドイツのゼーホーファー・バイエルン州首相がブルガリアを公式訪問した。同州首相はボリスフ首相と会談し、経済成長、投資及び域外国境の防衛を含む現在の情勢について議論した。同州首相は会合後、両国は将来行われるべきである難民政策について同じ意見を有している、両国は二国間関係の深化のために権限内でできるあらゆることを引き続き行う、ブルガリアで行われているあらゆる改革は投資家にとって非常に重要である、と述べた。また、両国の代表団は全体会合を行った。

▶ 同州首相はプレヴネリエフ大統領とも会談し、難民問題等について議論した。

◆ミトフ外相：黒海経済協力機構外相会合出席

▶ 11日、ミトフ外相はルーマニアのブカレストで開催された黒海経済協力機構（BSEC）外相会合に出席した。ミトフ外相は、ルーマニアのコマネスク外相、ギリシャのマルダス外務副大臣とも会談し、二国間協力等について議論した。

◆ミトフ外相：中立政策に関する国際会議出席

▶ 12日、ミトフ外相はトルクメニスタンのアシガバットで行われた「中立政策：平和・安全保障及び発展のための国際協力」と題する国際会議に出席した。同会議は、トルクメニスタンの永世中立国承認20周年を記念して行われた。

◆パヴロプロス・ギリシャ大統領のブルガリア訪問

▶ 14日、ギリシャのパヴロプロス大統領がプレヴネリエフ大統領の招待によりブルガリアを公式

訪問し、プレヴネリエフ大統領の他、ボリスフ首相、ツァチェヴァ国民議会議長と会談した。

▶ プレヴネリエフ大統領は会談後の共同記者会見で、全西バルカン諸国が欧州の家族の一員となるまで欧州プロジェクトは完了しない、と述べた。パヴロプロス大統領は、ギリシャは西バルカン諸国の欧州への展望を支持する、EUのパートナーとなることを希望する国々は制度的事実及び、とりわけ歴史を尊重すべきである、と述べた。また、パヴロプロス大統領は、トルコがEU加入に向けて努力する意思があり、政治経済レベルにおける欧州の構成や一般事項に関する国際法を尊重するのであれば、ギリシャはトルコの欧州への展望を支持する、と述べた。

▶ 会談では、二国間関係、両国間の貿易・経済的結びつき、地域の連結性、エネルギー協力、予期しない難民流入圧力についても議題とされた。プレヴネリエフ大統領は、難民・移民危機は共通の問題であり、その解決には欧州共通のアプローチが必要である、と述べた。

▶ プレヴネリエフ大統領は、現代的な地域エネルギー・インフラの構築の重要性について言及し、先週署名が行われた両国間の天然ガス相互接続管の建設に関する最終投資決定を歓迎した。また、プレヴネリエフ大統領はブルガリアのシェンゲン加入、数年前のEU・NATO加盟に対するギリシャの支持に謝意を表明した。これに対し、パヴロプロス大統領は、ギリシャはEUに関する事項については常にブルガリアを支持する、と述べた。

▶ 同日、パヴロプロス大統領はボリスフ首相とも会談した。両者は二国間の経済関係・貿易及び政府機関間での政治的対話の進展を高く評価した。また、パヴロプロス大統領はツァチェヴァ国民議会議長とも会談し、二国間関係や議会間交流の深化の機会等について議論した。

◆ダーヴトオール・トルコ首相のブルガリア訪問

▶ 15日、トルコのダーヴトオール首相がブルガリアを実務訪問し、ボリスフ首相、プレヴネリエ

フ大統領と会談した。

▶ダーヴトオール首相はボリスフ首相との会談で、今回のブルガリア訪問は我々の緊密な善隣関係及び共通の運命を示すものである、我々是对ブルガリア関係を優先する、と述べた。また、ダーヴトオール首相は、二国間の貿易高は現在の50億米ドルよりも増大するだろう、我々はソフィアとイスタンブールを結ぶ高速鉄道を含む主な運輸プロジェクトを実施する予定である、我々はアゼルバイジャンからの天然ガス供給のためのガス相互接続管を通じてブルガリアをトルコにつなぐ予定である、と述べた。

▶ダーヴトオール首相は、難民危機は最も高いコストを払っているトルコだけの問題ではなく世界の問題である、と述べ、不法移民の抑制において、EUの共同努力に加えて二国間協力を推進したいとのトルコの希望を表明した。

▶ボリスフ首相はダーヴトオール首相との共同記者会見において、我々の国境は難民流入圧力にさらされていないと問題なく言うことができる、と述べた。また、ボリスフ首相は、成果を生み出すことが期待される様々な活動について両国の内相及び官房長が相互協力を行っている、と述べ、密輸対策におけるトルコの支援に謝意を表明した。

▶ダーヴトオール首相は、トルコのEU加盟に向けた努力に対するボリスフ首相の支持に感謝している、と述べた。ボリスフ首相は、トルコが最速でEU加盟プロセスを完了することへの希望を表明した。

▶ダーヴトオール首相はロシア・トルコ関係の議題について、トルコはロシアとのいかなる緊張状態も望まない、なぜなら緊張状態は近隣諸国及び世界の平和に影響を与えるからである、と述べた。また、ダーヴトオール首相は、我々はあらゆる種類の問題に関してロシアと議論する用意がある、いずれかの時点でトルコとロシアは伝統的な協力関係を再開するだろう、と述べた。

▶プレヴネリエフ大統領はダーヴトオール首相との会談において、EU・トルコのパートナーシップの進展は不法移民の流入を止め、EU域外国境

の安全保障を向上させるための鍵である、と述べた。また、プレヴネリエフ大統領はトルコ・ブルガリア国境を管理し、ブルガリアへの難民流入を止めるためのトルコの努力を賞賛した。両者は、エネルギー多角化における更なる協力の拡大に向けた展望についても議論した。

◆ベシミ・マケドニア副首相のブルガリア訪問

▶17日、ミトフ外相は、ブルガリアを訪問中のマケドニアのベシミ欧州担当副首相との会談後、記者団に対し、マケドニアの欧州・大西洋への統合と同国の改革を全面的に支持すると述べた。

▶両者の会談では、交渉中の両国間の善隣友好協定についても話し合われた。ミトフ外相は、同協定に関してベシミ副首相から非常に前向きなメッセージが示されたと紹介した上で、最終合意のための方式を見出すことを希望しており、締結期限は設定されていないが、ベシミ副首相とはできる限り早期に締結するとの意思を確認したと述べた。

◆ボリスフ首相：欧州理事会出席

▶17日及び18日、ボリスフ首相は欧州理事会出席等のためブリュッセルを訪問した。

▶17日、ユンカー欧州委員会委員長はブリュッセルでブルガリアの記者団に対し、ブルガリアのシェンゲン加入を強く支持する、と述べた。ボリスフ首相は、ブルガリアを例に挙げ、同国の国境管理に対する見返りとして同国のシェンゲン加入を主張した欧州人民党（EPP）の全議員に謝意を表明した。

▶ボリスフ首相はブリュッセルでのフォーラムにおいて、ドイツのメルケル首相と実務会談を行った。ボリスフ首相はメルケル首相に対し、ブルガリアの国境管理について説明した。また、両首相はブルガリア政府と欧州委員会が共同作業部会設立の合意に達した、「バルカン・ガス供給ハブ」プロジェクトの進展についても議論した。

経 済

1. マクロ経済

◆2016年度国家予算の可決

▶2日、国民議会は2016年度国家予算案を可決した。2016年度予算の歳入（供与、寄付を含む）は206億2359万1500レヴァを見込んでいる。このうち法人税は17億3450万レヴァ、自然人の所得税は28億3千万レヴァ、付加価値税は84億960万レヴァ、物品税は46億7千万レヴァを見込んでいる。

▶歳出は109億4620万8600レヴァを見込んでいる。このうち経常的支出は83億3204万2600レヴァ、資本的支出は25億1188万7900レヴァ、臨時・緊急支出のための準備金は7110万レヴァ（災害防止・管理・緩和のための支出7千万レヴァを含む）を見込んでいる。

▶予算からの交付金（移転金）は104億5519万3200レヴァを見込んでいる。このうち26億6213万7千レヴァは地方自治体、50億6588万7100レヴァは社会保障、10億6919万9千レヴァは国家健康保険基金（NHIF）に交付する。EUへの拠出金は10億974万3800レヴァとなる。なお、当初予算案に盛り込まれていた治安部門の職員の各種手当の削減は、警察官等の抗議行動を受け、削除された。

▶財政赤字は17億8755万4100レヴァ（対GDP比2%）を見込んでいる。来年度における新規の政府債務の上限は53億レヴァに設定された。

▶来年度予算は来年のGDPを882億レヴァ、経済成長率を2.1%、インフレ率を0.5%と見込んでいる。

▶同日、国民議会は2015年度改定予算案も可決した。歳入は182億4759万2900レヴァから190億8035万3900レヴァに、歳出は90億5648万6200レヴァから94億4428万6200レヴァに増額された。財政赤字は4940万レヴァ増の22億7542万28

00レヴァとされた。

◆11月のインフレ率は前月比マイナス0.1%

▶14日の国家統計局の発表によると、11月のインフレ率は前月比マイナス0.1%となった。前年同月比ではマイナス0.4%だった。11月は前月比で衣服・靴、保健、娯楽・文化が0.2%値上がりした一方、輸送が1.7%値下がりした。なお、過去12ヶ月間（2014年12月－2015年11月）の平均インフレ率は前年同期比マイナス0.1%だった。

◆10月までの外国直接投資は約13.7億ユーロ

▶17日発表のブルガリア国立銀行（BNB）の暫定データによると、今年1月から10月までの外国直接投資（FDI）は13億7200万ユーロとなり、前年同期比で37.5%増となった。同期間におけるFDIのうち資本投資は9億5760万ユーロとなり前年同期比122%増となった。新たな企業による新規投資はなく、既存企業の資本投資が増加したものと見られる。

▶なお、今年1月から10月までの期間における在外ブルガリア人によるブルガリアへの送金額は7億420万ユーロとなり、前年同期比で130万ユーロ増加した。

◆最低賃金を月額420レヴァに引き上げ

▶23日、政府広報局は、2016年1月1日から（月額）最低賃金を現行の380レヴァから420レヴァに引き上げることを発表した。最低賃金の引き上げにより、求職者のモチベーションの増加や生活水準の向上が期待されている。

2. 経済政策、産業

（1）エネルギー関連

◆ギリシャとのガス接続管に関する最終投資決定への署名

▶10日、ブルガリア・エネルギー公社（BEH）とギリシャのIGIポセイドンは、ソフィアにおいて、ブルガリア・ギリシャ間のガス接続管の建設に関する最終投資決定に署名した。署名式にはボリスフ首相、ギリシャのスコルレティス・エネルギー相他関係者が出席した。ペトコヴァ・エネルギー相は、今回の署名は、両国だけでなく南東欧地域全体にとって戦略的重要性を有するエネルギープロジェクトの真のスタートとなるものである、本接続管は天然ガス供給の多角化をもたらすものであり、南回廊の主要部分である、と述べた。欧州委員会のロードマップによると、来年10月に着工し、実際のガス輸送は2018年半ばから開始される。

▶ペトコヴァ・エネルギー相は、ブルガリアとギリシャ、ルーマニア、セルビア及びトルコとのガス接続管は、ブルガリアが本地域におけるガス供給のハブとなる構想の基礎であるが、これは欧州エネルギー同盟の方針とも一致しており、ガス供給及びエネルギー市場の発展にもつながると述べた。本計画には当初資金として約2.2億ユーロを要するが、欧州委員会が支援を行っており、今後の支援も求められている。ペトコヴァ・エネルギー相は、うちルーマニアとのガス接続管については政府調達手続が開始され、入札に応じた四社の提案を欧州委員会が検討しているところであると述べた。

▶ギリシャのスコルレティス・エネルギー相は、今回の署名は両国及び欧州全体にとって非常に重要であると述べ、両国のガス接続管プロジェクトの戦略的重要性に言及した。

◆バルカン・ガス供給ハブに関する作業部会の設立

▶10日、政府広報部は、ブルガリアと欧州委員会は「バルカン・ガス供給ハブ」プロジェクトのマーケティング、ビジネス及び財政上の計画を検討するための共同作業部会の設立に合意したと発表した。同作業部会は、同プロジェクトの規制・財政面の検討から作業を開始し、安定的な規制枠

組とビジネス環境の構築における問題点の確認にも重点を置く予定である。

▶ドンチェフEU基金・経済政策担当副首相は同作業部会の開始にあたり、ブルガリアの地政学的位置及び既存のガスインフラは、この地域にガス供給ハブを構築する際の安定的な基盤となるものであり、政府はEU規則に従い安定的な規制枠組と商業的環境の構築に努力する、と述べた。「バルカン・ガス供給ハブ」プロジェクトは、エネルギー供給及びルートの多角化のためのブルガリアの戦略と合致しており、中東欧のガス接続のためのハイレベルグループ及びEUエネルギー同盟の戦略に示される地域のニーズにも合致している。

▶ボルハルト欧州委員会域内エネルギー市場局長は、カニエテ気候行動・エネルギー担当欧州委員の代理として、南東欧地域の全諸国へのガス供給の確保というガス分野の発展に対する欧州委員会の大きな関心を強調し、ブルガリアに地域ハブを構築することは本目標に向かう重要な飛躍になると述べた。

◆オーバースガスへの天然ガス供給問題

▶30日、ボリスフ首相はエネルギー関係者と緊急会合を行い、ロシアのガスプロム・エクスポートが民間のガス供給会社オーバースガス（Overgas）への天然ガスの供給を停止した場合、国営のガス供給会社ブルガルガス（ブルガリア・エネルギー公社（BEH）の完全子会社）に対し、オーバースガスへ天然ガスを供給する準備を行うよう指示した。本会合は、1月1日からのオーバースガスへのガス供給停止を示唆するガスプロム・エクスポート発オーバースガス宛書簡の写しをブルガルトランスガスが受領したことを受け行われた。本書簡の背景には、オーバースガスとガスプロム・エクスポート間の未払債務の問題及び未解決の取引上の問題があると見られている。一方、オーバースガスは、本書簡をガスプロム・エクスポートから受領していないと主張している。

▶オーバースガスはオーバースガス・ホールディング（50%）、ガスプロム（0.49%）、ガスプロ

ム・エクスポート（４９．５１％）が所有する民間の天然ガス供給会社である。オーバーガスへのガス供給が停止された場合、同社の顧客である国内約２０万世帯に影響が及ぶ見通しである。

▶３１日、ボリスフ首相はＢＥＨ及びブルガルガスと緊急会合を行った。ボリスフ首相は会合後の記者会見で、ブルガルガスとオーバーガスは１月１日から前者が後者にガス供給を行うとの契約に署名した、と発表した。ボリスフ首相は記者団に対し、政府がエネルギー関係者を招集して本件に対応しなかったら、オーバーガスの顧客は１月１日の未明からガス供給停止を受け入れなければならなかっただろう、と述べ、従来通りの価格で顧客にガスが供給されることを保証した。

（注：天然ガスは３１日から１月１日にかけて、計画通り国内の全顧客に供給された。）

（２）非ＥＵ諸国との関係

◆中国企業によるコズロドゥイ原発訪問

▶１５日、エネルギー省は、原子力発電所を運営する中国企業の幹部がコズロドゥイ原子力発電所を訪問した、と発表した。中国企業の代表団にはドンチェフＥＵ基金・経済政策担当副首相、ペトコヴァ・エネルギー相、ニコロフ・エネルギー副大臣、アンゲロフ・コズロドゥイ原発所長が同行した。

▶ブルガリア側は、原子力エネルギー、特にコズロドゥイ原発での新規原子炉の建設における二国間協力の機会について説明した。中国企業にはコズロドゥイ原発の優先事項、すなわち、（原発内で唯一稼働している）５号基及び６号基の使用期限の延長及び発電容量の１０４％までの拡大に関する最新情報が説明された。

▶アンゲロフ所長は、コズロドゥイ原発はブルガリア国内の電力の３３％を供給している、と述べた。今年の１月１日から１２月１３日までの間、コズロドゥイ原発の５号基及び６号基は１４、４９０、４６３ＭＷ／ｈの電力を生産した。

（３）ＥＵ関連

◆２００７－２０１３年期間のＥＵ基金の消化率は９４％に

▶２３日、ドンチェフＥＵ基金・経済政策担当副首相は、２００７－２０１３年期間のＥＵ基金の消化率は現在９４％（７９億ユーロのうち７４億ユーロ）である、と発表した。同副首相は、同プログラム期間の終了時には９５％に達するだろう、と述べた。

（４）その他

◆第５回ＡＳＥＭ労働・雇用大臣会合の開催

▶３日及び４日、ソフィアにおいて第５回ＡＳＥＭ労働・雇用大臣会合が「アジアと欧州における持続可能な社会開発に向けて：ディーセントワークと社会的保護のための共通のビジョン」をテーマに開催され、日本からは三ッ林厚生労働大臣政務官他が出席した。同会合では、各セッションのテーマに関連する具体的取組をまとめたソフィア宣言が採択された。

◆ソフィア・テック・パークの開所

▶１１日、ブルガリア初の科学技術パークであるソフィア・テック・パーク（プロジェクトの公式名称は「テクノロジー＋イノベーション・ネットワーク（ＴＩＮ）」）の開所式が行われた。開所式にはプレヴネリエフ大統領、ボリスフ首相、ルカルスキ経済相の他、ブルガリア訪問中のキスカ・スロバキア大統領、ゼーホーファー・独バイエルン州首相、クレツ地域政策担当欧州委員も出席した。

▶プレヴネリエフ大統領は、ソフィア・テック・パークはブルガリア初のハイテク・パークであるだけでなく、ブルガリアの将来を開くものである、と述べ、関係閣僚の同プロジェクトへの支援に対する謝意を表明した。

▶２０１２年の同プロジェクトの開始時から、同パークは科学・研究とビジネスの効率的な連携及び企業の立ち上げ支援を目的としている。ソフィア郊外にある同パーク領域には、情報通信技術、バイオテクノロジー、グリーン・エネルギーに関

する11の研究所が設立される予定である。同パークはEUから計3,620万ユーロ（欧州地域政策基金及び2014－2020年期間の実施プログラム）の資金を受けており、追加支援も予定されている。

◆病院の債務増加

▶21日の報道によると、病院の債務額が依然として高水準にある。今年の9月末時点における市立及び国立の病院の債務額は4億2300万レヴァにのぼる。このうち1億6700万レヴァは遅延債務である。

▶20日、モスコフ保健相は、アレクサンドロフ

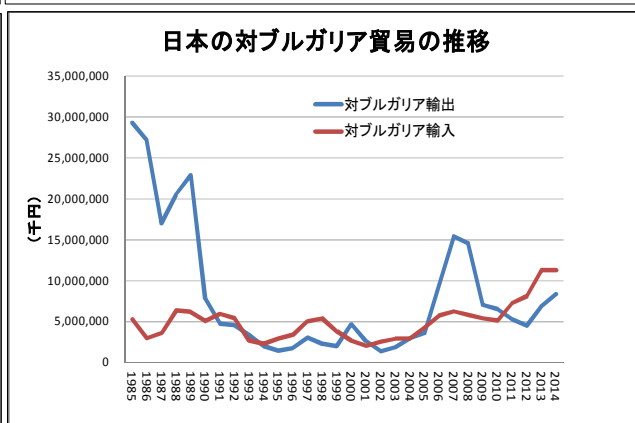
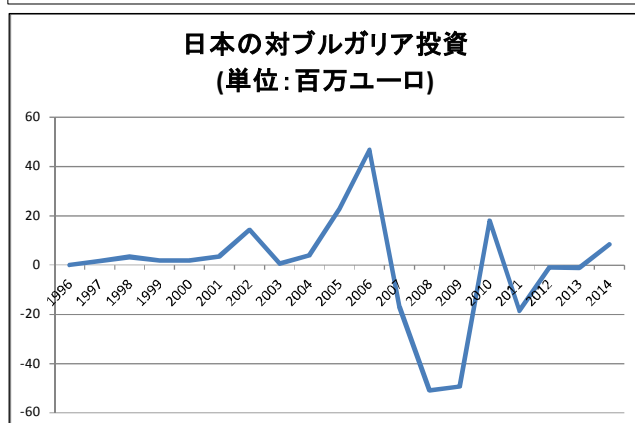
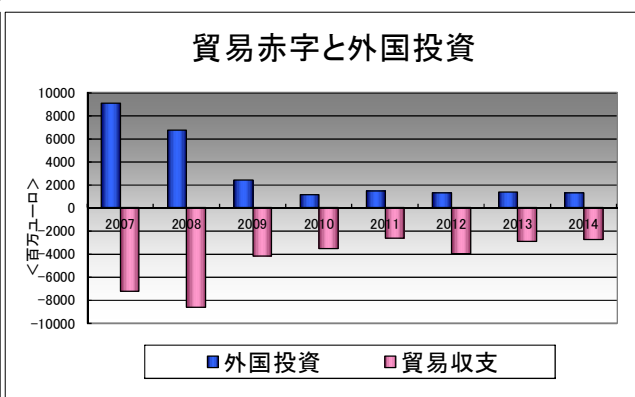
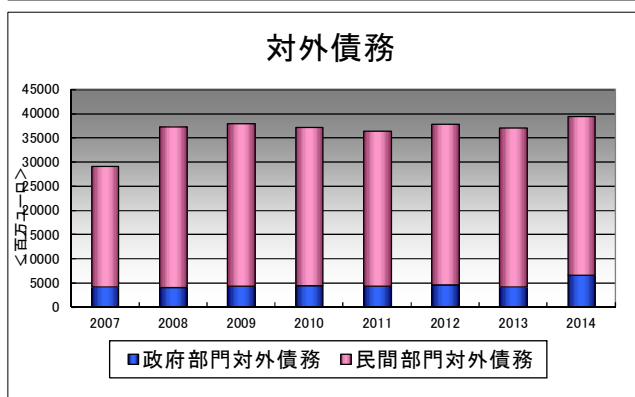
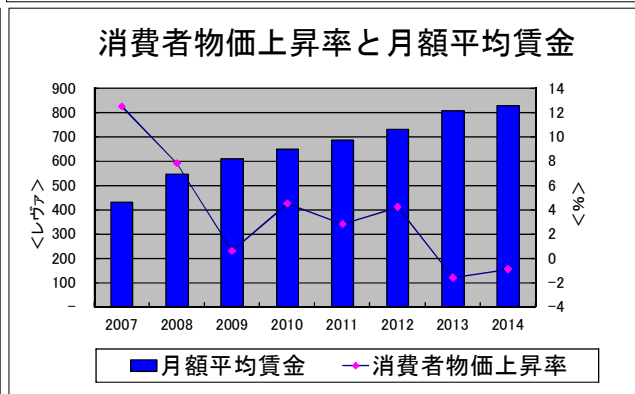
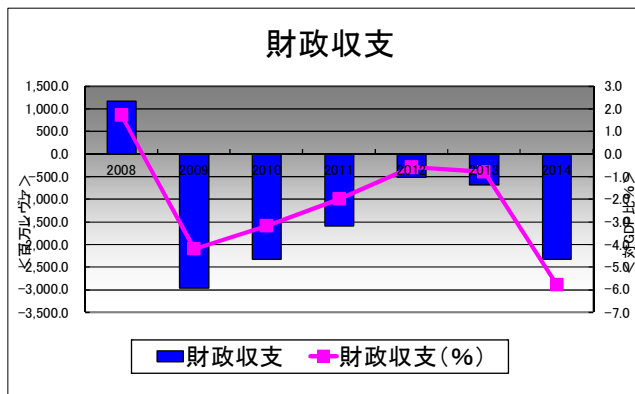
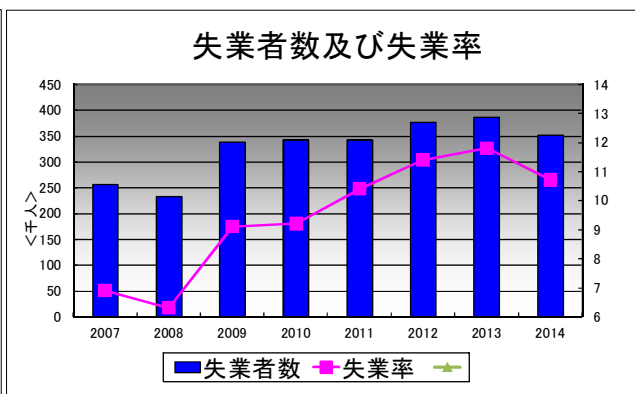
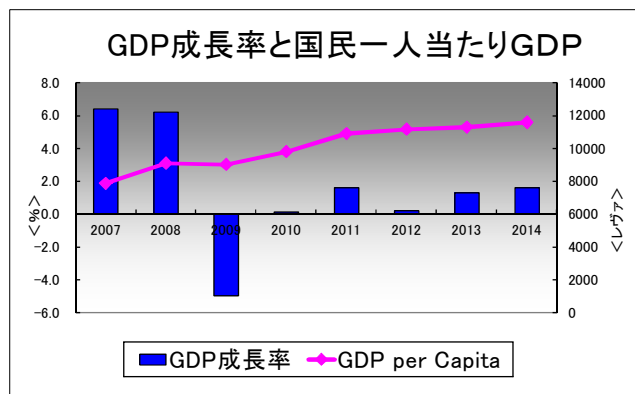
スカ病院のようないくつかの大規模病院の債務は新規設備の購入によるものである、病院の債務は国家健康保険基金（NHIF）の保険金支払い方法に起因するとの見方は誤りであると述べた。今年のNHIFの病院への保険金支払いは一定の上限額までとされ、いわゆる「限度超え」の医療行為に対する保険金支払いは行われていない。これらの「限度超え」の医療行為は総額5500万レヴァにのぼるとされる。また、モスコフ保健相は、今年の半ば時点で、65の国立病院のうち財政状況が良好であるのは11に過ぎないと述べた。

ブルガリア内政・外交の動き (12 月)

在ブルガリア大使館

1 (火)	
2 (水)	● 2016 年度国家予算の可決 ☆ミトフ外相：NATO 外相会合出席
3 (木)	★キャメロン英首相：ブルガリア訪問 (～4 日) ★レーク・ユニセフ事務局長：ブルガリア訪問 ★第 5 回 ASEM 労働・雇用大臣会合の開催 (～4 日) (於：ソフィア)
4 (金)	
5 (土)	
6 (日)	
7 (月)	★ガリバシヴィリ・ジョージア首相：ブルガリア訪問
8 (火)	
9 (水)	●イヴァノフ法相の辞任表明
10 (木)	●ギリシャとのガス接続管に関する最終投資決定署名 (於：ソフィア) ●バルカン・ガス供給ハブに関する作業部会の設立 ★キスカ・スロバキア大統領：ブルガリア訪問
11 (金)	●ソフィア・テック・パークの開所 ★ゼーホーファー・バイエルン州首相：ブルガリア訪問 ☆ミトフ外相：黒海経済協力機構 (BSEC) 外相会合出席 (於：ブカレスト)
12 (土)	●DSB の連立政権離脱
13 (日)	
14 (月)	★パヴロプロス・ギリシャ大統領：ブルガリア訪問
15 (火)	●DSB を除く改革派ブロック構成政党の連立政権残留の決定 ★ダーヴトオール・トルコ首相：ブルガリア訪問
16 (水)	●司法制度改革に関する憲法改正法案の最終可決
17 (木)	★ベシミ：マケドニア副首相：ブルガリア訪問 ☆ボリスフ首相：欧州理事会出席 (～18 日) (於：ブリュッセル)
18 (金)	●ザハリエヴァ新法相の就任
19 (土)	
20 (日)	
21 (月)	
22 (火)	
23 (水)	
24 (木)	●メスタン MRF 党首の党首解任及び党除名
25 (金)	
26 (土)	
27 (日)	
28 (月)	
29 (火)	
30 (水)	
31 (木)	●ブルガルガスとオーバースガス間のガス供給契約の署名

ブルガリア経済指標の推移 (出典：国家統計局，中央銀行)



ブルガリア主要経済指標 (出典: 中央銀行)

< GDP成長率と国民一人当たりGDP >

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015 Q1	Q2	Q3
GDP成長率 (%)	6.2	-5.0	0.1	1.6	0.2	1.3	1.6	3.3	2.8	3.0
GDP per Capita (BGN)	9,090	9,007	9,793	10,900	11,161	11,283	11,574	-	-	-

< 財政収支 >

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015 Q1	Q2
財政収支 (million BGN)	1,156.7	-2,960.6	-2,328.0	-1,589.7	-508.4	-640.1	-4,826.1	224.3	769.8
財政収支GDP比 (% of GDP)	1.7	-4.2	-3.2	-2.0	-0.6	-0.8	-5.8	0.3	0.9

< 失業者数及び失業率 >

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015 Jan	Feb	Mar	Apr	May	June	July	Aug	Sep	Oct	Nov
失業者数 (千人)	232	338	342	342	376	386	351	364	361	362	350	332	316	310	307	303	313	324
失業率 (%)	6.3	9.1	9.2	10.4	11.4	11.8	10.7	11.1	11.0	11	10.7	10.1	9.6	9.4	9.3	9.2	9.5	9.9

< 消費者物価上昇率と月額平均賃金 >

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015 Jan	Feb	Mar	Apr	May	June	July	Aug	Sep	Oct	Nov
消費者物価上昇率 (%)	7.8	0.6	4.5	2.8	4.2	-1.6	-0.9	-0.4	0.2	0.4	0.7	-0.2	-0.9	-0.2	0.0	-0.1	0.2	-0.1
月額平均賃金 (BGN)	545	609	648	686	731	775	828	856	839	882	897	873	868	879	858	885	885	-

< 対外債務 >

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015 Jan	Feb	Mar	Apr	May	June	July	Aug	Sep	Oct
政府部門対外債務 (million EURO)	3,935.9	4,208.3	4,326.9	4,205.0	4,578.9	4,062.2	6,552.0	6,164.5	6,095.5	6,952.2	6,721.2	6,628.0	6,530.6	6,471.4	6,345.6	6,190.6	6,076.6
民間部門対外債務 (million EURO)	33,310.6	33,608.2	32,699.4	32,089.8	33,134.6	32,873.4	32,804.4	32,662.3	32,761.1	32,464.8	32,046.2	29,074.7	29,065.7	28,249.4	28,162.9	28,186.2	28,248.7

< 対内直接投資と貿易収支 >

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015 Jan	Feb	Mar	Apr	May	June	July	Aug	Sep	Oct
対内直接投資 (million EURO)	6,727.8	2,436.9	1,169.7	1,476.3	1,320.9	1,383.7	1,285.4	271.0	502.7	630.8	842.2	818.1	980.3	1,081.1	1,290.0	1,308.0	1,371.5
貿易収支 (FOB) (million EURO)	-8,597.7	-4,173.9	-3,532.7	-2,648.0	-3,947.2	-2,890.7	-2,734.6	-122.6	-380.6	-507.1	-683.0	-799.6	-903.3	-1,148.3	-1,105.3	-1,190.6	-1,378.0
輸出 (FOB) (million EURO)	15,204.0	11,699.2	14,180.6	19,055.7	19,667.6	21,208.0	21,016.5	1,625.9	3,276.6	5,218.2	7,129.8	8,964.5	10,925.4	12,908.1	14,760.9	16,608.0	18,677.9
輸入 (FOB) (million EURO)	23,801.7	15,873.1	17,713.3	21,703.7	23,614.8	24,098.7	23,751.2	1,748.5	3,657.2	5,725.3	7,812.8	9,764.1	11,828.7	14,056.5	15,866.2	17,798.5	20,055.9